

都市公共交通整備にともなうアーバン・インテリアの実証的研究

Survey and Analysis of Urban Interiors Created through The New Public Transportation System

ペリー 史子 (PERRY Fumiko)

楽しく遊歩できる都市公共歩行者空間、すなわちアーバン・インテリアの空間構成に関する研究を進めていく中で、アーバン・インテリアは都心公共交通システムと大きくかかわっていることが見いだされた。

そこで、本研究では、新しい都市公共交通手段・次世代型路面電車として話題を集めつつも日本ではその導入実現がなかなか難しい Light Rail Transit (LRT)を、交通計画的側面ではなく、「都市公共交通整備に伴うアーバン・インテリア空間創出」という観点から捉え LRT 導入がもたらす都市の魅力創造・向上に関する具体的な事柄を得るために、アーバン・インテリアの空間デザインと LRT との関わりに関する特徴を探ることを目的とした。研究対象は LRT 導入の進んでいるヨーロッパの諸都市とし、資料・文献調査を行い、その内、様々な都市特性を持つ 26 都市を抽出し、現地実態調査を実施した。

研究分析結果は次のようにまとめることができる。

- ・ LRT 車体は、街の新しい顔としてデザインされているが、街並の色彩がニュートラルな場合には目を引く色が、そうでない場合は白やライトグレーが用いられ、街並との調和が図られている。また、目をひく濃い色は街の歴史的建造物や地形的要素等と何らかの関係を持っており、街の特徴を新しいアクセントカラーとして表現している。
- ・ アーバン・インテリアである LRT 停留所のシェルターは、①透明なパネルを多用して街にとけ込むようなデザイン、②遠くからも目につくオブジェのようなデザインの2タイプに大別できる。いずれの場合も、券売機や案内表示はユニット化されている。
- ・ 軌道敷きの素材にはレンガ、石、ブロックタイル、木、芝生等があり、特に芝生軌道の場合はその緑の帯が新しい緑豊かな都市景観を生み出している。
- ・ LRT 軌道は広場や都市小公園も通過するが、歩行者空間である広場全体の一体感を損なうことなく軌道周囲がデザインされ、軌道と歩行者空間との素材や仕上げの差異、その境界の作り方に様々な工夫がなされている。
- ・ LRT 車体、停留所、パークアンドライドの建物のみならず、街灯、車止め、橋の欄干等に至るまで、統一されたデザイン・コンセプトに基づくようにデザインされた事例もあり、LRT 導入によって街全体が新しい雰囲気を生み出している。
- ・ LRT 軌道脇に、公園や広場、遊歩道等歩行者のための空間がみられることも多く、LRT という公共交通は歩行者とのつながりを強く保つことが出来るように考えられる。

これら研究成果は「第41回土木計画学研究・講演集(2010)」、「第43回土木計画学研究梗・講演集(2011)」、「第45回土木計画学研究・講演集(2012)」、および、「スマートまちづくりフォーラム in 水戸論集(2012)」等に掲載されている。